

年 度	組	児童数	年 度	組	児童数	年 度	組	児童数
明治三三	一	一三人	昭和二〇	六	二七三人	昭和四二	六	一六九人
三三	二	一八	二〇	六	二七七	四三	六	一五六
三四	三	一八	二一	六	二七〇	四四	六	一四九
三五	三	三七	二二	四	二〇四	四五	六	一四七
三六	一	三五	二三	四	二〇四	四六	六	一四七
三七	一	五六	二四	五	二三〇	四七	六	一四七
三八	一	五五	二五	五	二二八	四八	六	一四四
三九	一	五四	二六	五	二二〇	四九	六	一四四
四〇	一	八五	二七	六	二二五	五〇	六	一〇三
四一	二	一〇一	二八	六	二二〇	五一	六	一〇六
四二	二	一二二	二九	六	二二〇	五二	五	九二
四三	三	一三七	三〇	六	二一五	五三	六	七六
四四	三	一〇七	三一	六	二一五	五四	六	七八
四五	二	一八〇	三二	六	二四一	五五	六	八一
四六	二	一五〇	三三	六	二四一	五六	六	九二
四七	二	一七三	三四	六	二五八	五七	五	六七
四八	二	一四八	三五	六	二七五	五八	五	六七
四九	二	一五一	三六	六	二七〇	五九	四	三八
五〇	二	一七二	三七	六	二四四	六〇	四	二七
五一	三	一八〇	三八	六	二四四	六一	三	二七
五二	二	二〇〇	三九	六	二四四	六二	三	二七
五三	二	二五〇	四〇	六	一九九	六三	三	二七
五四	二	二三五	四一	六	一八九	六四	三	二七
五五	五	二七六	四二	六	一八三	六五	三	二五
五六	五	二七八	四三	六	一七四	六六	三	二二

註 高等科併置(大正九年度以降)

資料「落合小学校資料」

歴代学校長

代 氏 名	就任年月	代 氏 名	就任年月
初 豊 基九郎	明治四三・四	一 鈴 木 亘	昭和二九・六
二 入 沢 伝 市	四四・四	二 赤 樫 宗 吉	三三・四
三 一 柳 今 七	大正七・一	三 山 本 進	三六・四
四 梅 田 鉄次郎	一三・五	四 菅 原 美智雄	三九・四
五 鈴 木 真太郎	昭和二・一〇	五 堀 田 賢 正	四二・四
六 菊 地 嘉 夫	四・八	六 伊 豆 田 晴 輝	四五・四
七 立 山 重 雄	六・三	七 近 藤 友 晴	五〇・四
八 大 山 清 一	一〇・四	八 二 口 隆	五四・四
九 森 本 清 水	一四・五	九 葛 本 昭 一	五六・四
一〇 後 藤 弘	一六・五	一〇 前 川 辰 治	五九・四
一一 広 本 敏 夫	二〇・六	一一 辻 博	六二・四

PTA活動(事業)

- 一、会員研修
- 二、各種懇談会
- 三、親睦交流会
- 四、学級PTA活動
- 五、広報活動の展開
- 六、協力奉仕活動(環境整備・学校行事)

歴代PTA会長

代 氏 名	就任年月	代 氏 名	就任年月
一 塚 栄太郎	昭和二	六 村 田 日出雄	昭和四
二 福 岡 進	二五	七 荒 山 忠 夫	四四
三 松 本 作次郎	二六	八 小 松 忠 雄	四六
四 村 田 広吉	二八	九 阿 部 輝 宣	四八
五 佐 藤 幸 吉	三三		

鹿越小学校(廢校) 明治三十五年(一九〇二)一月、官設鉄道十勝

線鹿越停車場の鉄道線路の傍に建っていた保線課の一室を借用し、授業を行ったのが当校創立の起源である。同年四月一日、鹿越市街地五七番地に鹿越簡易教育所開設の認可を受けた。児童在籍数は一五人で、同三六年(一九〇三)四月以降は、名取元一所有の家屋を補修し授業を行ったのであった。三八年(一九〇五)九月一日、鹿越市街予定地九八番地に校地一反八畝九歩の指定認可となり、翌三九年一月一日、校舎三三坪を新築し移転、初めて独立校舎での授業を行った。しかし、大正五年(一九一六)一月二六日、当時の船川准訓導所有の鶏舎から失火、校舎を不幸にも全焼した。この急場の措置として、同年二月一日、ユクトランベツ八二九の浅野信太郎所有の建物に応急処理を加え、仮校舎使用認可を受け、授業を続行した。翌六年(一九一七)一月三日、校舎八六・五坪の新築をみた。同年四月一日、鹿越尋常小学校と改称、四月一六日から一〇月三十一日まで二部授業を施行した。同年六月二五日、ユクトランベツ八二九ノ二に位置を変更し校地九歩増となった。十一月一日には、二学級を編成した。九年(一九二〇)二月一日、農業実習地として(運動場併用)校地四反八畝が認可となった。同年九月一日に二教室を増築。一〇年(一九二一)四月一日、三学級を編成。同年九月二〇日に一教室二〇坪、廊下五坪を増築した。翌一一年(一九二二)一月六日、前校地の接続地

鹿越一四一七番地一反八畝一八歩を追加買収した。一三年四月一日、二学級編成となった。

昭和七年九月三〇日、全校舎の改築を施工した(七八坪、経費三一〇〇円)。九年三月二四日に鹿越青年訓練所を併置した。一〇年五月一五日、奉安殿を造営(経費六〇〇円)。一二年二月二日、開校三五周年記念式典を挙行、奉安殿へ御真影を奉戴した。一五年八月三十一日に高等科併置が認可され、尋常高等小学校となった。一六年四月一日、国民学校令の公布により鹿越国民学校と改称、初等科、高等科を設置。二〇年四月一日、四学級を編成。戦後の昭和二年四月一日、六・三制の施行により高等科は廃止され、鹿越小学校となった。一三年三月三十一日、東鹿越小学校が開校認可となり(鹿越小学校から分離)、同年四月一日、一二〇人が東鹿越小学校へ分離入学し、当校は二学級編成となった。二五年一月二日、学校林二町七畝を設定。二七年一月三日には開校五〇周年記念式典を挙行した。二八年五月、金山ダム建設工事の調査が開始された。二九年一〇月一日に教室を移転。三一年八月一五日、図書室を増築した。三三年一〇月一七日、部落会議室を付設した。三四年四月一日、三学級を編成。三四年一〇月一五日に体育館を新築(五九・七五坪)。三七年七月、金山ダム建設のため水没する校下住民の転出が始まり、三八年一〇月に金山ダム建設工事が開始され、四〇年四月一日、二学級を編成(三一人)、四一年



65年の歴史を閉じた鹿越小学校

三月二九日廃校式が挙行された。

いつまでも母校とふるさとを胸に残して
 明年三月金山ダムの湛水とともに、湖底に沈む鹿越小学校は、一足早く三月二九日、同校体育館で幾多の感慨をおりませ、六十五年の歴史を閉じる廃校式が行われました。

ら鹿越部落の人たちをはじめ、道内各地よりはせ参じた旧教職員、同窓生、来賓など約二百人を招いて開かれ、村教育委員長の告示(南教育委員代理)、伊藤校長の式辞、新田村長、寺西村議会議長、PTA会長、第一回卒業生(杉山金市氏)の挨拶のあと、村長より同校PTA、鹿越巡査駐在所坂本氏、大板砕石作業所に感謝状が贈られました。このあと母校に別れを告げる児童の代表六人の挨拶は、参列者の胸を強く打ちました。
 こんなに楽しい学校と、どうして別れなければならないのか、ダムで、ここに水がたまるからです。

そうだ、ダムのために学校はなくなるけど、大水はなくなる、水田はできる、何万人の人のためになるのです。そうだ、みんなのためになくなるんだ、悲しみなんか吹き飛ばそう……
 三十一人の児童たちは、父兄、先輩の拍手に送られながら、いつまでも母校とふるさとを胸に残して、手を振って別れを告げました。

式後引続き惜別の会が催され、六十五年の歩みに話の花がさき、なごりを惜しみながら終了しました。
 (昭和四一年四月一五日刊「広報富良野」第一二四号登載)

四一年三月三十一日、金山ダム建設という厳しい現実の前、六五年にわたった長い校史を閉じ廃校した。

卒業生の推移

年 度	卒業者数	年 度	卒業者数	年 度	卒業者数	年 度	卒業者数	年 度	卒業者数
大正 一	三	昭和 一	一五	昭和 一	一六	昭和 一	一六	昭和 一	一六
大正 二	六	昭和 二	一四	昭和 二	一五	昭和 二	一五	昭和 二	一五
大正 三	一〇	昭和 三	二二	昭和 三	二〇	昭和 三	二〇	昭和 三	二〇
大正 四	九	昭和 四	一七	昭和 四	一八	昭和 四	一八	昭和 四	一八
大正 五	九	昭和 五	一六	昭和 五	一七	昭和 五	一七	昭和 五	一七
大正 六	九	昭和 六	一六	昭和 六	一七	昭和 六	一七	昭和 六	一七
大正 七	九	昭和 七	一七	昭和 七	一八	昭和 七	一八	昭和 七	一八
大正 八	九	昭和 八	一七	昭和 八	一八	昭和 八	一八	昭和 八	一八
大正 九	九	昭和 九	一七	昭和 九	一八	昭和 九	一八	昭和 九	一八
大正 一〇	九	昭和 一〇	一七	昭和 一〇	一八	昭和 一〇	一八	昭和 一〇	一八
大正 一一	九	昭和 一一	一七	昭和 一一	一八	昭和 一一	一八	昭和 一一	一八
大正 一二	九	昭和 一二	一七	昭和 一二	一八	昭和 一二	一八	昭和 一二	一八
大正 一三	九	昭和 一三	一七	昭和 一三	一八	昭和 一三	一八	昭和 一三	一八
大正 一四	九	昭和 一四	一七	昭和 一四	一八	昭和 一四	一八	昭和 一四	一八
大正 一五	九	昭和 一五	一七	昭和 一五	一八	昭和 一五	一八	昭和 一五	一八
大正 一六	九	昭和 一六	一七	昭和 一六	一八	昭和 一六	一八	昭和 一六	一八
大正 一七	九	昭和 一七	一七	昭和 一七	一八	昭和 一七	一八	昭和 一七	一八
大正 一八	九	昭和 一八	一七	昭和 一八	一八	昭和 一八	一八	昭和 一八	一八
大正 一九	九	昭和 一九	一七	昭和 一九	一八	昭和 一九	一八	昭和 一九	一八
大正 二〇	九	昭和 二〇	一七	昭和 二〇	一八	昭和 二〇	一八	昭和 二〇	一八
大正 二一	九	昭和 二一	一七	昭和 二一	一八	昭和 二一	一八	昭和 二一	一八
大正 二二	九	昭和 二二	一七	昭和 二二	一八	昭和 二二	一八	昭和 二二	一八
大正 二三	九	昭和 二三	一七	昭和 二三	一八	昭和 二三	一八	昭和 二三	一八
大正 二四	九	昭和 二四	一七	昭和 二四	一八	昭和 二四	一八	昭和 二四	一八
大正 二五	九	昭和 二五	一七	昭和 二五	一八	昭和 二五	一八	昭和 二五	一八
大正 二六	九	昭和 二六	一七	昭和 二六	一八	昭和 二六	一八	昭和 二六	一八
大正 二七	九	昭和 二七	一七	昭和 二七	一八	昭和 二七	一八	昭和 二七	一八
大正 二八	九	昭和 二八	一七	昭和 二八	一八	昭和 二八	一八	昭和 二八	一八
大正 二九	九	昭和 二九	一七	昭和 二九	一八	昭和 二九	一八	昭和 二九	一八
大正 三〇	九	昭和 三〇	一七	昭和 三〇	一八	昭和 三〇	一八	昭和 三〇	一八

註 高II高等科

資料「鹿越小学校資料」

代 氏 名	就任年	代 氏 名	就任年	代 氏 名	就任年	代 氏 名	就任年
初 高橋清民	大正 六	阿波繁治	大正 四	三上哲太郎	昭和 一四	鈴木信	昭和 三一
二 村上武夫	大正 七	入部令観	昭和 四	伊藤幸太郎	一 九	宮沢貞夫	三六
三 安保孟夫	一八	後沢重雄	一七	高橋正雄	二二	伊藤義明	三八
四 田中恒太郎	一一	山辺鎮平	一一	内藤貞一	二五		

歴代学校長